様式第 13 号（第９条関係）

五島列島（下五島エリア）ジオパーク活動支援助成金
事業成果概要【公開用】

事　業　名	福江島の耕作地が支える渡り鳥の旅 ～福江島の二次的自然が生物多様性保全に果たす役割～
事業の種類	調査・研究事業　／　普及・啓発事業 ※該当する事業に〇を記載願います
所属・ 事業実施者	長崎大学大学院 水産環境科学総合研究科・天野孝保
事業期間	令和４年　８月　１日　～　令和５年１１月３０日
関連分野	生態学/鳥類学/保全 ※事業の分野（地質学／考古学／普及・啓発／保全など）について記載願います
キーワード	島嶼/農地/渡り鳥 ※事業に関するキーワードを 3 点程度記載願います
対象地	五島列島福江島の耕作地全域 ※事業対象の地区や地名（複数の場合は全て）を記載願います

※本様式にて提出の内容は五島列島ジオパーク推進協議会ホームページでそのまま公開いたします。

事業成果の概要

※事業の実施が分かる写真を添付してください。
※小学６年生が理解できる文言で記載をお願いします。

＜調査・研究事業の場合＞

1. どうして調べたのか（背景・目的）

五島列島は日本の西の端に位置している大きな島です。その特有な位置から五島列島の福江島は、長い距離を移動する渡り鳥たちが休憩の場として利用します。福江島の農耕地は、一次産業や、歴史・文化的意味からの重要性だけでなく、多様な渡り鳥の旅を支えるというユニークな役割を果たします。これはジオパークの観点からも定量的な資料を残すべき重要な課題で、調査研究価値は非常に高いです。この研究では、秋の福江島に渡来する渡り鳥、特にシギ・チドリの仲間やサギ類の仲間、小鳥の仲間、ツルの仲間を対象に、どのような種がどの程度の数、島の耕作地を利用するのか、そしてどのような食物を食べているのかを明らかにしました。得られた結果から、福江島の耕作地が渡り鳥の旅に与える役割について深く理解することを目的としました。

2. どうやって調べたのか（調査・研究手法）

調査は、渡り時期である９月～11 月にかけて島内の耕作地にて実施しました。島内の農耕地を車で 20 分間走りながら、調査者から 50m の範囲内で観察される渡り鳥を見つけ、種、個体数、耕作地の状況等を記録しました。近くの森の中から鳴いている個体と間違えないように、完全に農耕地を利用している鳥類だけを記録する目的で、鳴き声のみによる識別は行わず、目視で観察された種類だけを記録しました。また、通過しただけの個体もカウントせず、農耕地で採餌、休憩している個体のみとしました。ただし、農耕地内にある電線やガードレールなどに止まっている個体は農耕地を利用しているものと考えて記録しました。

3. なにが分かったのか（結果と考察）

観察できた種類は、ツバメの仲間やヒバリ、セッカ、タゲリ、シギの仲間など約 30 種類観察できました。9 月～12 月まで調査期間の中で農地を利用する鳥類の種類と数は変化し、収穫や天気の影響で農地の様子も変化していました。ツバメの仲間とシギの仲間は 9 月にピークを迎えました。シギの仲間は地面で餌を食べていることから、水が浅く広く溜まっている環境ほど個体数が多かったです。猛禽類の仲間であるノスリやチョウゲンボウ、カラス類、コシアカツバメは耕作地の上や耕作地にすぐそばに作られた電線や電柱など人工物の利用も多く、ノゴマなどもガードレールで確認されました。ノスリやチョウゲンボウは冬の鳥なので、電線などを使って餌を探していたと思います。コシアカツバメは、日本で冬を過ごせないので外国に渡るための休憩として、農耕地に訪れ、電線で休憩していたと判断しました。これらの記録から五島列島の福江島はたくさんの鳥が訪れ、その時期も違っていて、中でも農耕地は鳥たちにとって重要な環境だとわかりました。

1. 収穫前の夏の田んぼ

2. ガードレールを利用する鳥